

令和6年7月 大雨災害に伴うボランティア活動の記録

令和6年10月31日現在
鶴岡市ボランティアセンター対応分

1. 鶴岡市内被災地での活動

月日	場所	活動件数	活動内容	ボランティア数	
				人数	内訳
7/31 (水)	藤島三和	2件	家財道具等搬出、集積所へ運搬、清掃	8名	企業3
8/2 (金)	藤島三和	1件	家財道具等搬出、清掃	4名	団体1, 個人1
8/3 (土)	藤島三和	1件	家財道具等搬出、清掃	2名	企業1, 個人1
8/4 (日)	藤島三和	4件	家財道具や畳搬出、集積所へ運搬、清掃	45名	団体7, 個人1
8/8 (木)	藤島三和	1件	家財道具等搬出、清掃	1名	個人1
8/19 (月)	藤島三和	1件	家財道具等搬出、清掃	3名	個人3
8/20 (火)	藤島三和	1件	家財道具等搬出、清掃	2名	個人2
合計 (延)		11件		65名	企業4, 団体8、個人9

<協力企業、団体等>

※順不同

(株)タマツ、ヒューマンテック(株)、日栄産業(株)、NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、真如苑 SeRV 山形、公益社団法人鶴岡青年会議所、庄内郵便局長会鶴岡第三部会、藤島ライオンズクラブ、宮城県大崎市社会福祉協議会。他にお声がけいただいた方々多数。
個人は、鶴岡市ボランティアセンター登録者、鶴岡市社会福祉協議会職員。



▲藤島地域三和町内会入口付近の様子
(7/26 NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク撮影)

鶴岡市の建物被害 (市発表 10/11)

地域	床上浸水	床下	合計
鶴岡	3	10	13
藤島	10	80	90
羽黒	2	6	8
櫛引	0	1	1
朝日	0	1	1
温海	0	0	0
合計	15	98	113

鶴岡市災害ボランティアセンター設置について

○設置に関する主な動き

月日	内容
7/25 (木)	大雨により市内各地で浸水が発生し鶴岡市防災安全課から現状等を確認
7/26 (金)	鶴岡市社協職員が藤島地域で現地確認（多くの住民が避難所へ避難していた）
7/27 (土)	ウェザーハート災害福祉事務所千川原代表がボランティアセンターへ（対応相談） 鶴岡市役所（防災安全課、地域包括ケア推進課、福祉課、藤島庁舎）と対応協議
7/28 (日)	藤島地域三和で訪問ニーズ調査（社協、市役所職員） 鶴岡市災害ボランティアセンター開所 （ボランティア依頼受付開始）
7/29 (月)	これまで会えなかったお宅へ訪問聞き取り等（藤島地域） ※その後も随時対応 藤島地域以外のニーズ確認（床上浸水があった地域を中心に） ※ "
7/30 (火)	鶴岡市関係課と情報共有、ボランティア調整
7/31 (水) ～ 随時	ボランティア活動開始 訪問ニーズ調査、活動依頼対応（現場確認等） 宮城県大崎市社会福祉協議会職員が災害ボラセン応援来鶴
8/9 (金)	鶴岡市災害ボランティアセンター閉所
その後8/20まで	閉所後、通常のボランティアセンター業務として各相談依頼に対応

○今回の対応について

被災した藤島地域の被害状況を確認した結果を受けて、鶴岡市防災安全課と鶴岡市社協が協議し、7月28日に西新斎町の鶴岡ふれあいプラザかたりあいのボランティアセンター内に鶴岡市災害ボランティアセンターを設置しました。活動としては、発災直後から鶴岡市ボランティアセンターと日頃から関係を築いている多くの企業、団体や個人登録している方々より、活動に協力したいとの連絡をいただいております。また、ボランティアの依頼件数も想定よりも少ない状況だったことから、今回は広く周知するボランティア募集を行わず、日頃から連携関係にある企業、団体、個人の皆さまのご協力により、ボランティア活動に取り組みました。

○市役所藤島庁舎車庫を拠点にして活動

藤島地域でのボランティア集合場所・機材置場等として、鶴岡市役所藤島庁舎車庫と駐車場を拠点として活動に取り組みました。

鶴岡市廃棄物対策課・藤島庁舎、鶴岡市社協藤島福祉センター等と、頻繁に情報共有や調整しながらに支援活動を行いました。



藤島地域での活動より



▲一人暮らし高齢者のお宅から、浸水した家財道具等を運び出し集積所へ運搬しました



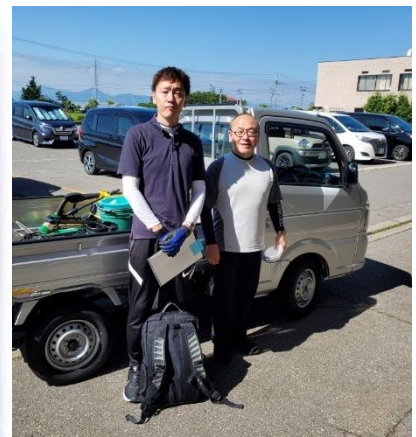
▲農家が多い地域なので、自宅だけでなく敷地内や小屋・倉庫等への浸水も多かった。
一人暮らし高齢者や障がいがある方が、自分でできない作業をボランティアが応援



▲床上浸水の被害があったお宅から、重くなった畳や家財道具を搬出し集積所へ



▲▼多くの皆さまからのご協力に心より感謝いたします



▲ 藤島地域にご縁がある方、鶴岡市に住んでいる方等々…そして炎天下の中
災害ボラセン支援に来てくれた宮城県大崎市社協の皆さんもいっしょに活動してくれました。

随時連携・情報共有先

鶴岡市防災安全課、鶴岡市地域包括ケア推進課、鶴岡市廃棄物対策課、鶴岡市藤島庁舎総務企画課、藤島地域三和町内会会長、鶴岡市社協藤島福祉センター、山形県社会福祉協議会、ウェザーハート災害福祉事務所、宮城県大崎市社会福祉協議会

2. 他市町村被災地での活動 (鶴岡発ボランティアバス運行)

No	月日	活動市町村	活動内容	ボランティア数	
				人数	内訳
1	8/11 (日)	庄内町①	泥だし、側溝土砂出し等	10名	一般 5名 社協職員 5名
2	8/24 (日)	酒田市①	清掃、廃棄物運搬等	5名	社協こぶし会 5名
3	9/ 1 (日)	戸沢村①	家財道具等搬出、清掃等	9名	一般 3名 市職員 2名 社協職員 4名
4	9/ 6 (金)	戸沢村②	家財道具等搬出、清掃等	10名	一般 4名 市職員 1名 社協職員 5名
5	10/4 (金)	戸沢村③	泥だし、家財道具搬出等	4名	一般 1名 社協職員 3名
6		酒田市②	泥だし、家財道具搬出等	5名	一般 4名 社協職員 1名
7	10/ 9 (水)	酒田市③	泥だし、家財道具搬出等	8名	社協職員 8名
8	10/16 (水)	酒田市④	泥だし等	8名	一般 2名 社協職員 6名
9	10/29 (火)	酒田市⑤	清掃、家財道具等搬出・運搬、瓦礫等の撤去運搬他	8名	社会福祉法人連携 職員 8名
計	9回			67名	一般 19名 市、福祉職員等 48名

実際の運行車両は、各災害ボラセンから現場に移動しやすいようにワゴン車等を使用。

※活動市町村名の数字は、その市町村での活動回数。

※社協こぶし会は、鶴岡市社協管理職員の会。

※社会福祉法人連携は、鶴岡地区特養連絡協議会の公益的な取組として実施した活動。



▲庄内町で活動した地区の様子

沢が大量の土砂に埋まり水が流れない状態



▲酒田市災害ボランティアセンターの様子

受付後のオリエンテーション

庄内町での活動より（旧立川地域）



▲浸水した一人暮らし高齢者のお宅で、敷地にたまっている泥と土砂出し作業。庄内町ボランティア連絡協議会役員や地区の方々、町社協職員等と一緒に活動してくれました。



▲土砂で埋まってしまった側溝があらこちらに。
技術が必要な作業とのことで、活動経験が豊富な5人が側溝を担当しました。
▶普通のスコップが入らない幅でしたが、水が流れるまでに復旧することができました。





▲ここは、地区の方々が一日も早く水を流したいと住民の皆さんが復旧させていた側溝。
おかげさまで、ボランティアが使った資機材を洗うこともできました。



▲赤川花火大会直前でしたが、鶴岡青年
会議所では理事長以下3名が参加して
一緒に活動できました。



▲地区の方々と一緒に、搬出した泥や土砂
公民館脇の仮置場へ繰り返し運搬しました。



◀庄内町立川地域の
廃棄物集積場には
ものすごい量の家財
道具や畳等の山。
皆さんの暮らしの中で
大切なものばかり。



▲地区の人たちにとって大切な
沢が土砂に埋まっていました。

戸沢村での活動より（蔵岡地区・白糸地区）

戸沢村での活動では、被災したお宅での作業等の撮影は行っておりませんので、それ以外の写真を掲載しております。



▲▶戸沢村災害ボランティアセンター。



▲受付前後は、参加したボランティアやスタッフとの交流や情報交換の場として貴重な時間です。

◀各チームごとにオリエンテーションが行われ、この日の活動先や内容、注意事項等が担当スタッフから伝えられます。



▲猛暑の中の活動後、災害ボラセンから
嬉しい差し入れ。



戸沢村社協 ある職員の想い…

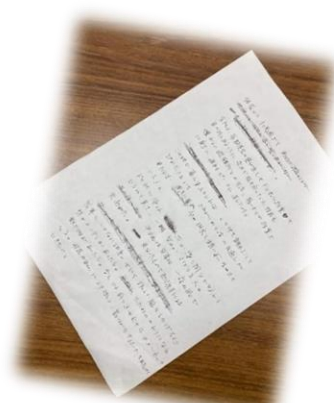
自らも浸水の被害を受けて避難所生活をしながら、社協職員として災害ボラセンスタッフとして被災者の支援を続けていた一人の職員が書いていた…支援をとおしての想いを紹介します。

「発災から1ヶ月過ぎて」

当初は、家財道具の運び出しやドロ出し作業で目の前にあることに全力で向き合っていた住民も、慣れない避難所での生活、暑い中での作業で心身ともに疲れもピークに達している。

この地で暮らす人もいれば、この地を離れることを決めた人もいて、これからの生活の見通しがたらず途方に暮れ今の現実を精一杯生きている人。

ドロ水に浸った花が家の周りで咲いているのを見て、一瞬 笑みがこぼれる人。平穏な日常は一夜の雨で失われた。失ったものを取り戻すには、簡単にいかない現実。せめて涼しい風をしのげるような窓やカーテンがあったら。たたみのかわりになる敷き物があったら。少しでも前にふみ出せる力がわいてくる。住民の皆さんにより添い、影ながらサポートを続けていきたい。皆さんから温かい支援をいただき本当にありがたいばかりです。戸沢村災害ボランティアセンターでは、これからも住民に寄り添いながら支援を続けていきます。ご協力をよろしくお願いいたします。



酒田市での活動より（大沢地区・他）

酒田市での活動では、**了解をいただいたお宅以外での作業等の撮影は行っておりません**ので、それ以外の写真を掲載しております。



◀旧八幡町や旧松山町等の山間部は特に被害が大きく、多くの方々が濁流や土砂により被災しておりました。また、地区内ではいくつかの橋が流され、川沿いの土手がえぐられ、稲刈り前の田んぼにはたくさんの流木が転がっていました。



▲この日の鶴岡チームは、午前中に他のボランティアと 20 名ほどのグループになって土砂出し作業とダンプでの運搬を担当しました。（写真は作業後の資機材や車両の洗浄）



▲浸水した高齢者宅から家財道具や畳等の運びだし。その後、トラック 2 台分を廃棄物仮置き場に運搬、搬入を行いました。



▲八幡地域「ゆりんこ」近くの廃棄物仮置き場
大変な状況にある人たちに、少しでも癒しを…そんな気持ちが伝わる入口でした。



▲酒田市災害ボランティアセンターにて。（八幡タウンセンター）



▲鶴岡地区特養連絡協議会が、社会福祉法人の公益的な取組として活動。
県内外のボランティアとともに、被災したお宅等での作業を行いました。
(同協議会では、生活困窮世帯のためのフードドライブ活動にも毎年取り組んでいます)

遊佐町での活動より

遊佐町でボランティア募集をしていた時期に、鶴岡市も災害ボランティアセンターを設置して被災者への対応を行っており、ボランティアバス運行による遊佐町での活動を行うことができませんでした。

鶴岡市からは、接遊佐町を始め各災害ボランティアセンターに直接申し込んで活動された方々がたくさんおりました。



▲遊佐町災害ボランティアセンターに置かれている、スタッフからのメッセージ！
多くの人たちに想いが伝わって、SNSで紹介する方もおりました。



◀被災地した方々に、困りごとを聴くためのニーズ調査では、冷却スプレーやタオル等を入れた「お見舞いパック」を持って災害ボラセンスタッフが訪問。

▲全国の方々からいただいた寄附物品を活用。

鶴岡市内 NPO 法人の炊き出し活動

NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク（村井勢一代表理事）では、山形県内外で発生した災害被災地で随時支援活動を行っており、令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震では、1 月の発災直後から 5 月までの間に、現地支援に入っている NPO 等と連絡を取り合い、石川県と富山県で炊き出し活動を計 5 回実施されました。

このたびの大雨災害では、鶴岡市内藤島地域や他の市町村の災害ボランティア活動に NPO メンバーや同法人への協力者等の方々が参加されております。また、被災した他の町村から同法人に依頼があった住民交流事業（交流行事への応援含む）にも対応していただいておりますので、ご紹介いたします。

10/14（日）遊佐町吹浦地区で

- 活動場所 遊佐町吹浦防災センター
- ボランティア NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワークと協力者
- 配食数 50食
- メニュー 芋煮、栗ご飯天然舞茸入り、
玉こんにゃく煮、天然舞茸と
ネギのバー醤油炒め



被災して大変な状況が続いていた地区で
交流行事を美味しい料理で応援



10/27（日）戸沢村蔵岡地区で

蔵岡地区は、仮設住宅への入居などで、地区外に避難している世帯も多くあります。

この日は、避難している方も合わせ約 80 人が参加して久しぶりに交流を楽しみました。

ボランティアとして応援してくれた方々は、同 NPO 法人の他、東日本大震災の時に被災地で一緒に活動した、「山形県庁そば打ち研究会」、戸沢村の以前の大雨災害以降蔵岡の方々と人間関係を築いて交流を続けてきた「チームはちまき」、大道芸のパフォーマー「路地裏芸人's」などです。

○活動場所 戸沢村蔵岡公民館

○ボランティア 山形県庁そば研究会、チームはちまき、NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワークと協力者、路地裏芸人's

○配食数 150食

○メニュー 天ぷらそば、栗ご飯天然舞茸入り、他



3. 鶴岡市災害ボランティアセンターへのご寄付

※鶴岡市社協以外への寄付金は、鶴岡市ボランティアセンターが窓口となり被災地等へお届けしたものです。

月日	寄附された方	内容	備考
8/1	宮城県 大崎市社会福祉協議会様	・500 mlペットボトル飲料水 24本×5箱 (計120本) ・カップ麺 3箱 (計44個)	平成28年11月 鶴岡市社協と災害 時相互応援協定 を締結
	生活共同組合協立社様	・2ℓペットボトル飲料水 6本×20箱 (計120本)	
	鶴岡市防災安全課様	・土嚢袋 100枚	
8/2	株式会社東北ノイアック様	・給水用スポンジ 中20枚、小500枚	(株)タマツ様を通じて
8/6	サンサービス様	・被災地や他町村災害ボラセンへの 寄附金 (3か所へ)	イベント出店時の 売上の一部と参加 者からの募金
8/26	株式会社とよみ様	・他町村災害ボラセンへの寄附金 (1か所)	イベント開催時の 参加者からの募金
10/17	関西社協コミュニティワーカー 協会様	・プラ箱2箱 (災害ボランティア用 資機材、長靴等洗浄用)	鶴岡市社協の職員 が所属している団体



皆さま どうもありがとうございました

4. 各災害ボランティアセンターへの職員の派遣

※令和6年10月31日現在

(日数・人数は延数)

月	酒田市	遊佐町	戸沢村	合計
7月	2日間・2人	—	—	2日間・2人
8月	9日間・18人	13日間・30人	8日間・8人	30日間・56人
9月	9日間・20人	2日間・2人	2日間・2人	13日間・24人
合計	20日間・40人	15日間・32人	10日間・10人	45日間・82人

◎職員は、鶴岡市社会福祉協議会本部（総務課、職員厚生課、事業推進課）、生活支援課、地域福祉課、各福祉センター、くらしの各部署から調整して派遣しています。

5. まとめとして

毎年のように、県内外で大きな災害が発生する状況にあります。

このたびの大雨災害で被害を受けた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

鶴岡市でも、大雨による影響は毎年出ておりましたが、今年は藤島地域をはじめ他の地域でも床上・床下浸水に等よる被害が発生し、災害ボランティアセンターを設置する事態になってしまいました。発災からしばらくの間は、鶴岡市内の被災地への対応が続きましたが、ボランティア活動に参加してくれた方々、ご寄付をいただいた方々、被災地した町内会の会長さまを始め、鶴岡市役所の各部署と連携をさせていただき、迅速・柔軟に支援活動を行うことができました。活動する中で出てきた課題等は、行政や関係した皆さまと振り返りを行い、今後いざという時に活かしていく所存であります。

酒田市をはじめ、他の被災地の皆さまの中には、まだ復旧・復興の道すじがみえない方々もおられます。現時点でも、酒田市にはスタッフ応援や多くのボランティアが駆けつけて1日も早い復旧のために尽力されている状況です。鶴岡市からも、被災地の状況を確認しながらボランティアによる応援を市民の皆さまとともに地道に続けていきます。

これまでの、鶴岡の方々等の取組を一旦記録するために、資料として整理をいたしました。

今後も、新たな動きがありましたら随時更新をしてお伝えしていければと思います。

ご協力いただいたすべての方々に感謝し、現在までの活動報告とさせていただきます。

令和6年10月

社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市ボランティアセンター

所 長 半 澤 浩